

# なは歴史散歩

市内には、首里城や識名園など世界遺産をはじめとする、琉球王国時代から近代にいたる歴史的な遺産が数多くあります。

市内に点在する旧跡や当時活躍した偉人の旧宅跡など、当時の絵図や写真に解説を加えた旧跡標示(日本語、英語併記)を、市内60か所に設置して紹介しています。

今回はその中から駅周辺を取り上げてみました。

モノレール駅をスタートして、親子で郷土の歴史の足跡(旧跡標示)を見つけて歴史散歩に出かけてみませんか。夏休みの自由研究にもお勧めですよ。

歴史散歩に出かけよう



## 首里駅～儀保駅周辺

1. 紙渡所跡(カミスジョウト)  
琉球王国時代から昭和初期にかけての紙漉所跡。

2. 高平山(タカデーラヤマ)  
琉球王国時代の組踊「万歳殿討」舞台。

3. 太平橋(タイヘイキョウ)  
琉球王国時代に首里と浦添を結ぶ街道に架けられた石造橋。

4. 平等所跡(ヒラジョウト)  
琉球王国時代の裁判所跡。

5. 奥川盛武生家跡(カメカワセイブセイカト)  
琉球処分期の三司官で、処分反対の指導者。

6. 与那原良矩生家跡(ヨナバルリョウキョウセイカト)  
琉球王国の三司官で、沖縄三十六歌仙の一人。

7. 虎瀬山(トラジヤマ)  
「首里八景」の一つとして「虎山松清」と謳われた景勝の地。公園内には、歌人・佐藤惣之助の歌碑が立っています。

8. 儀保殿内跡(ジブドゥンチアト)  
琉球王国時代の高級女神官「儀保大阿母志良礼(ジブウファンシタリ)」の神殿及び住居跡。

9. 間得大君御殿跡(チフィジンクドゥンチアト)  
琉球王国時代の最高女神官「間得大君加那志(チフィジンガナシ)」の神殿及び住居跡。

10. 首里殿内跡(シュイドゥンチアト)  
琉球王国時代の高級女神官「首里大阿母志良礼(シュイウファンシタリ)」の神殿及び住居跡。

11. 国王頌徳碑(コクオウショウトクヒ)  
琉球国王尚清の徳を讃えた石碑。1543年に建立された石碑を現在地に復元した。

12. 天王寺跡(テンノウジアト)  
第二尚氏王統の始祖尚円王の創建と言われる王国時代の臨濟宗寺院跡。

13. 貝摺奉行所跡(カイズリブギョウショウト)  
王家御用、献上用漆器製作のための首里王府の役所跡。

14. 高所跡(タカジョウト)  
琉球国内の田畑の石高や貢物の貨物を扱う首里王府の役所跡。

15. 松崎馬場跡(マツザキババト)  
龍潭に突き出した一帯は松が植えられ松崎と名付けられた。

16. 羽地朝秀生家跡(ハネジチョウシュウセイカト)  
琉球王国時代の政治家羽地朝秀の生家跡。

17. 宜湾朝保生家跡(ギワンチョウホセイカト)  
琉球処分直前の三司官で、著名な和歌人、宜湾朝保の生家跡。

18. 蔡温旧宅跡(サイオンキョウタクアト)  
琉球王国時代の政治家蔡温の住宅跡。

## 旭橋駅周辺

1. 伊波普猷生家跡地(イハフユウセイカトチ)  
沖縄学の父として知られる伊波普猷の生家跡。

2. 天使館跡(テンシカンアト)  
琉球王国時代に中国が派遣した冊封使(天使)のための施設・宿舎跡。  
※近接した、下天宮(シムヌテンシ)、那覇里主所についての説明と位置図も併記してあります。

3. 親見せ跡(オヤミセアト)  
琉球王国時代の役所跡です。海外貿易で得た品物を扱う「御店」(おみせ)であったと言われています。

4. 薩摩藩在番奉行所跡(サツマハンザイバンギョウショウト)  
在番飯屋(ザイバンカイヤ)、大飯屋(ウカカイヤ)とも言います。1628年、薩摩藩が出先機関として設置し、琉球支配の拠点となりました。

5. 那覇港および周辺の旧跡  
那覇港は、14世紀～15世紀以来、琉球王国の表玄関として繁栄しました。繁栄の歴史を語る旧跡が港周辺にありました。  
①三重城(ミエグスク)、②臨海寺、③迎恩亭、④唐船小堀(トウシツグミイ)、⑤思案橋、⑥通堂(トウドウ)、⑦渡地(ワタンジ)、⑧宮古蔵(ミヤコクラ)、⑨琉球城(ルーワグスク)、⑩御物城(オモノグスク)、⑪落平(ウテンダ)、⑫スラ場、⑬住吉、⑭慶良屋社城(ヤラザムイグスク)について、説明しています。那覇港から旧跡地を眺めながら往時を偲ぶことができます。

## 戦跡

8月15日は終戦記念日

A. 慶良間チージ(シュガーローフ)  
宇安里の北側丘陵地帯に築かれた日本軍陣地で、沖縄戦の激戦地の一つです。首里防衛の重要地点で、日米の激しい攻防が展開され、一日のうちに4度も頂上の争奪戦がくり返される激戦が展開されました。  
※おもろまち駅近く、安里排水池横の小公園内に標示板があります。

B. カテラムイ(寿山)旧海軍壕  
海軍航空隊機銃部隊の本部隊地壕。沖縄戦当時、小禄飛行場防衛のための陣地壕の一つで、住民も動員して進められました。(現在は、落盤の恐れがあるため壕内に入ることはできません。)  
※小禄駅近く、小禄市経営住宅の裏手に標示板があります。

階段で上がれるよ